

真名板高山古墳(行田市)

まないたたかやまこふん

埼玉県の指定史跡、真名板高山古墳(真名板薬師堂)とある



正面は真名板高山古墳の後円部/6世紀後半築造の、東西に主軸を持つ前方後円墳で、前方部には浅間社が祀られているらしい/左手に説明板が立っている



標柱と説明板/ボーリング調査の結果から、古墳が約3m埋没している(利根川の氾濫による土砂で埋没してしまった埋没古墳)ことや、深さ約2mの二重の周掘が巡ることが判明しているとう/墳丘の形状は、かつて多量の封土が除去されたために、大きく変形しているらしい



もう少しはっきり見えるようにメンテナンスを望みたい

県指定史跡

またないたたかやま

真名板高山古墳

昭和四十九年三月八日指定

この古墳は、東西に主軸をもつ前方後円墳で、旧忍川の沖積地に向かう微高地上に立地している。

現存の墳丘の大きさは、全長九十・五メートル、前方部の高さ七・三メートル、最大幅五十メートル、後円部の高さ五・四メートル、直径四十メートルである。

墳丘の形状は、かつて多量の封土が除去されたために、大きく変形している。

築造年代、埋葬施設、副葬品類については明らかではないが、周辺から採集された埴輪片等から、六世紀後半の築造と考えられている。

武蔵最大の規模を誇る埼玉古墳群は南西約四キロメートルにあるが、時期的には並行しており、その関連が注目される。

平成二年三月

埼玉県教育委員会
行田市教育委員会

後円部から登ってみる/道筋がついている



ここが後円部墳頂/前方がくびれ部、前方部方向



この辺りがくびれ部か・・・



そこで左手を見たところ



同じく右手を見たところ



少し進むと、前方部が見えてきた



この上が前方部墳頂



境頂に石碑が立っている/ここに浅間社があると云うのだが・・・



富士講の石碑(右手/これが浅間社と云うことか)と輪王坐の石仏らしい



振り返って後円部方向を見たところ



くびれ部辺りへ戻ろう



この先が後円部



この上が後円部の境頂



後円部墳頂まで戻ったところ



これは前方部を下から見上げたところ



そこで右手の墳丘裾を見たところ



これは左手で前方部から後円部方向を見たところ



その先で後円部方向を見たところ/右手はくびれ部辺り



これは南西側から見た墳丘と二重の周堀跡の様子/左手前が前方部、右奥が後円部



さて、真名板薬師堂も見てみよう/左奥の木々の所が真名板高山古墳の後円部



仁王門





前方は雄木2本、雌木1本から成る公孫樹/行田市指定天然記念物



行田市指定文化財

ま な いた や く し どう い ち ょ う
真名板薬師堂の公孫樹

昭和33年3月1日指定

現在の真名板薬師堂の境内には、江戸時代には新義真言宗花蔵院という寺院がありました。しかしながら、明治維新後に花蔵院が廃寺となり、県指定文化財銅造伝薬師如来立像が安置されている薬師堂と楼門だけが残されて、現在に至っています。

その薬師堂の前に東西方向に一直列に3本植栽されているこの公孫樹は、西側の2本が雄木、東側の1本が雌木です。樹高はいずれも30m、目通り幹囲は西側からそれぞれ5.6m、5.3m、3.6m、根回りは西端の雄木が最も大きく8.2mを計ります。

樹齢700年とも伝えられている行田市内有数の巨木群です。

平成23年

行田市教育委員会

これは「新渠之碑」という、この地の偉人を称える石碑



新渠之碑

在昔禹之治水也八年於水三過其門而不入疏濬決泮注諸海以清天下之溺夫水之害雖聖人之世不能免而聖人憂之其急如此武藏國埼玉郡真名板村自古居卑濕之地每夏月有風雨動水及民家漂淋沒穢民不知所避之扶老抱幼而號泣於隆高之地往年村人相議而築堤外之民害之高不過於五尺是以雖存堤防之名而無避水害之實里民太憂之里正齋藤作右衛門藤原義任者為人宏才多智憂之不措天保十一年二月自建決水之策言之於官官善其策賜金若干以給費乃作渠長百六十間而水害隨遠土人相欣稱之曰齋藤渠任又謀於父老曰今決一渠於東西注之于望川上流則可免洪水之憂也渠內之民百方說之然終疑不決者水不肯者六村以為今寧一渠於田頭恐失澆田之利是決不可為之事也渠內之民百方說之然終疑不決者十有餘年一旦渠水相議以為水難分上下鄉黨不可失其好若不聽鑿渠之策恐絕鄰里之誼於是內外始和而約成矣安政五年之春發里民而決渠長四百八十六間經七尺深隨地之高低不日而成矣何其功之速也渠成而後雖有甚風雨不罹水害者百餘頃里民相欣嗚呼義任所憂固不得多古聖人相比然推誠立功可謂偉矣嘗聞真名板村所祠久伊豆大明神者即所載於延喜式玉敷神社也玉敷神社者蓋傳所謂大名持神也此神為蒼生經營天下所未成者又能巡遊焉由此觀之義任鑿渠舉之其人心終和而成功之速村神或助之歟今茲村人相議而立碑于新渠之傍使予記其由因書所聞而應常云

慶應二年十月

敷田年治撰

荻原聖書

(基礎)

(裏面)

- 道地村
- 吉野松治朗
- 清水半兵衛
- 江原市郎兵衛
- 松長助
- 松○彌平次
- 河村村
- 藤間左右衛門
- 同 正右衛門
- 川島
- 川島
- 鈴木次右衛門
- 田島又右衛門
- 若杖忠太郎
- 南明願寺村
- 伊○忠四郎
- 北明願寺村
- 木村幣藏
- 相澤庄藏
- 同 舟左右衛門
- 慶應三年九月
- 富田家臣
- 酒卷兵右衛門義貞
- 志多見村
- 松村源六郎正勝
- 中作村
- 酒卷善之助義明
- 村方
- 齋藤作右衛門義任
- 楠垣茂作義邦
- 藤間左市
- 柴崎敬之丞
- 遠見傳藏
- 同 甚左衛門
- 横田惣四郎
- 遠見寺藏
- 榎木次良左衛門

新渠之碑(原文意訳)

中国古代の伝説上の聖王禹は、八年をかけて治水を行い、水を海に注がせることにより洪水に怯える天下の人々を救った。しかし、いかに聖人の世といえ水害の難を免れることはできず、聖人は治水の心配をすることが第一であった。

当地、武藏国埼玉郡真名板村は、古来より湿地で毎夏の風雨による洪水が起こり、その被害は民家にも及び、人々は高所にこれ避けてただ嘆くのみであった。

当地の里正齋藤作右衛門藤原義任(齋藤家第十四代当主、全龍寺に眠る)は、天保十一年二月水防の策を建言し、官より若干の資金を得て長さ百十六間の渠を築いて、水害は激減した。

人々はこれを喜び、この渠を齋藤渠と呼んだ。

義任はまた、父老と協議し、東西にわたる渠を造れば望川上流も洪水の心配を免れると述べ、六村が共同で一つの渠を造ることを提案したが、各村それぞれの利害関係もあって話がまとまらず十有餘年が過ぎ去っていた。

しかし、後日話がまとまり、安政五年の春人々の決をもって長さ四百八十六間、(幅)七尺の渠を掘ることが決まりやがて完成した。

渠が完成した後は、甚だしい風雨があっても水害はなくなり、人々は義任を古の聖人と並ぶ偉業をなしたとして褒めたたえた。

また、真名板村の久伊豆神社大明神は延喜式に記されるところの玉敷神社である。玉敷神社は、いわゆる大名持ちの神社で、天下の民衆がいまだ成し遂げていないことや造築をする者を加護するといわれている。

義任が造った渠が人心を和し、その努力が実を結んだのは、この神の助けがあったからではないだろうか。

村の人々が協議して新渠の傍らに石碑を建立するに際し、その由来を記すものである。

慶應二年十月

平成二十二年 庚寅 四月吉日建立

真名板社寺会
薬師堂文化財保存会

これは、この地にあったとされる真板氏館跡の石碑



これが薬師堂/棟札によると、延宝7年(1679年)から天和2年(1682年)にかけての建立らしい



鎌倉時代後期の銅造伝薬師如来立像(埼玉県指定文化財)が安置されている



埼玉県指定文化財

銅造伝薬師如来立像

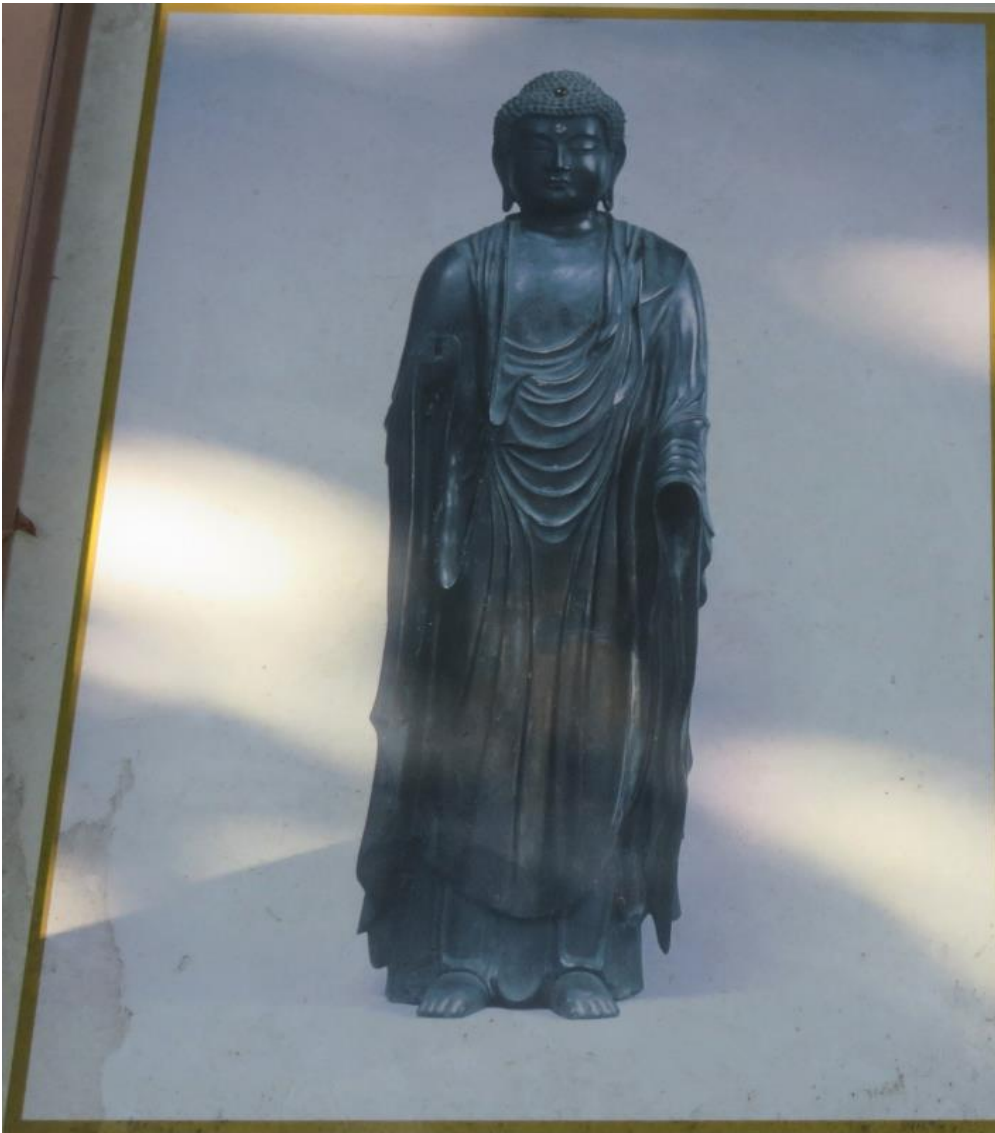
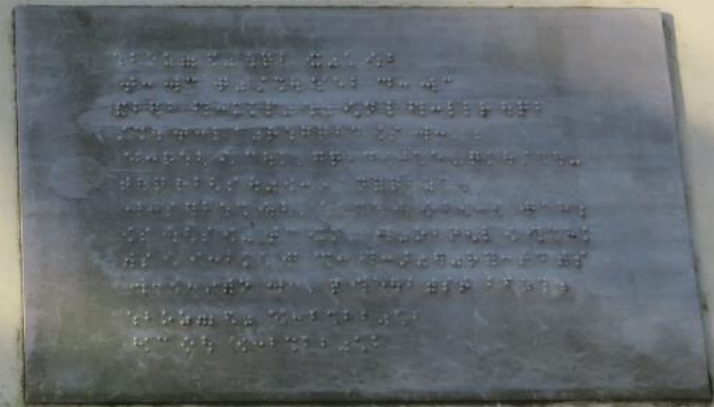
平成17年3月22日指定

像が安置されているこの薬師堂は、江戸時代にこの土地にあった花蔵院という真言宗寺院の境内にあって、その差配を受けていた堂であったといわれています（『新編武蔵風土記稿』）。花蔵院は明治時代初期に廃寺となり、現在は薬師堂のみが残り、この像は両手先が失われていることから「手なし薬師」として地域の信仰を集めています。

像の制作時期は鎌倉時代後期であり、この時期の金銅仏は全体的に小作りなものが多く中で94cmもの像高を持つ像は珍しいものといえます。また、薬師堂の近くには、この像とほぼ同じ時期にあたる「建治元年（1275）」銘の板石塔婆（行田市指定文化財）があります。

平成19年12月

埼玉県教育委員会
行田市教育委員会



真名板薬師堂建立時期の説明 (棟板の解説)



（表）
 奉造立薬師如来精舎一字武蔵国埼玉郡真名板村花蔵院
 住持俊大阿闍梨大徳那 出州平太左衛門伊佐新門藤原市兵衛 小徳那中
 同所四及左衛門作右門藤原三左衛門
 寛文五年
 遊歴僧聖
 多形兼光
 以等々敬礼
 貞享二年 正月八日 大工 小工 惣棟那中



（裏）
 延寶七年 天和貳年マナ 四年ノ 建立也
 我此名号一経其耳衆病悉除身心安樂

（表・裏）
 棟板の表面上部にみえる四行で記された文は、

聖主天中天 迦陵頻伽聖 愛懸衆生者 我等今敬礼
 と読み、法華経八巻二十八品のうち第七の化城喻品（けじょうゆほん）の
 偈（じ）です。偈には経典の字二句、四句、五句、六句などの律句をもつ
 て教説をのべたものをいいます。この化城喻品の偈は、仏教に歸する棟板で
 常務的に用いられるものの内のひとつです。また、この棟板では「愛懸衆生
 者」と書かれています。多くは「哀懸衆生者」と書きます。
 ・この偈を読み下すと、「聖主にして天中の天なり、迦陵頻伽の音ありて衆生
 を哀懸したる者なり、我等今、敬礼したるまづる」となります。
 意味は、「（釈尊は）聖者の中の上首であり、人が尊ぶ天の中でも最高で
 す。迦陵頻伽（仏教の想像上の霊鳥で美声で鳴くといふ）のような美しい声
 で、衆生を哀れみ救済する教説を説かれます。我等は今、仏を敬礼いたしま
 す」となります。

・この偈の下に続く一文
 奉造立薬師如来精舎一字武蔵国埼玉郡真名板村花蔵院
 は「建立したてまつる薬師如来精舎一字 武蔵国埼玉郡真名板村花蔵院」と
 読みます。文中に出てくる花蔵院は、「新編武蔵風土記稿」によれば
 「花蔵院 真山に在り 本堂不詳也」と記されていますので、熊谷市
 上野の新義真言智恵山派の各院（薬院の末令であったことがわかります。
 薬師如来精舎（薬師堂）はこの花蔵院を中心に棟那中がお金を出し合つて
 建立されたのでしよう。



の字は、薬師如来種子（やくしによらいほんじ）です。種子とはもろもろ
 の仏を梵字（フンスクリット）一文字であらわしたものです。薬師如来種子
 は「ハヤ、ハ、ハ、ハ」のよびで読みます。
 ・この種子に続いて記されている一文は

我此名号一経其耳衆病悉除身心安樂

と読み、薬師如来本願経（やくしによらいほんがんきょう）の第七願です。
 薬師如来本願経では薬師如来が衆生を救済するために縁けた十二の大願を
 のべて、薬師如来を深く心に念じ称するすれば人々の苦しみを除き、新佛出世
 すれば折斷がやうことを説いています。
 ・この偈を読み下すと、「我（薬師如来）の名をひとたびその耳に縁ば、衆
 病悉く除かれ、身心安樂ならん」となります。
 意味は、「私の名を一度でも耳にすれば、人々の病は除かれ、身も心も安
 樂に通ず」といふことです。
 前後にこの棟板にみえる年号について見ておきましょう。まず、裏には
 如来精舎が延宝七年（一六七九）から天和二年（一六八〇）の四年間をかけ
 日付がみられます。次に表には「貞享二年（一七五三）三月八日」の
 精舎の建立後、この棟板を納めた日（工棟立）をあらわしたものであると考え
 られます。

平成二十二年一月吉日

真名板社寺会
 薬師堂文化財保存会

右手は行田市内で最も大きな板石塔婆/建治元年(1275年)の記年銘と銘文が刻まれている/行田市指定文化財





行田市指定文化財

いた いし どう ば
板石塔婆

昭和34年3月19日指定

この板石塔婆は、高さ3.51m、幅87cm、厚さ13.7cmの行田市内で最も大きな板石塔婆です。

板石塔婆は、鎌倉時代以降盛んに造られた^{りょくていへんがん}緑泥片岩等を使った石碑の一種で、一般的には死者の霊を供養するために造立されました。

この板石塔婆は、上部に伊字ノ三点、その下に阿弥陀一尊の種子（キリーク）を^{しょうごんたい}荘嚴体で刻み、中央の蓮台の上に「南無阿弥陀仏」の銘文、左右に長五輪塔、下部に建治元年（1275）乙亥九月の記年銘と銘文が刻まれています。

銘文の一部がはく落、磨滅していますが、『新編武蔵風土記稿』によれば右側に「右志者奉為過住 主君幽儀^は畢生^誼」と記されていたようです。左側に「尽法界群類平等 利益仍造立如件」、下部には「沙弥西念敬白」と記されており、沙弥西念が主君の滅罪と法界群類の平等利益を願い建立した板石塔婆であることがわかります。

鎌倉時代の^{ろくじみょうごう}特徴をよく具えた六字名号（南無阿弥陀仏）板石塔婆の典型例と言えます。

平成23年

行田市教育委員会

これはカ石





カ石（ちからいし）

真名板薬師堂境内に現存するカ石は、カ試しに用いられたと思われる大きな石で、江戸時代から明治時代までの間、この石を使ったカ試しが盛んに行われていたという。

その後、この習俗は次第になくなり、かつてあったカ石のほとんどは行方不明になったが、その一部は、神社や寺院の境内に奉納されている。

行田市教育委員会は、一九七八年（昭和五十二年）に行田市内のカ石の所在調査を行い、その結果が「文化財調査報告第6集」にまとめられている。

それによると、真名板地区では、薬師堂境内正面入口付近に無造作に放置されていた2個のカ石が確認され、そのうち1個には「二十五メ」の刻銘も記されている。

石になんらかの文字が刻まれていればカ石と確認できるが、無銘だとただの大きな石と区別がつかず次第に忘れ去られ、石の自重で土の中に沈み込みそのまま埋もれてしまうため、ここに安置し、その存在を後世に伝えんとするものである。

記

右側・全長	64cm	最大巾	30cm	重量	90kg (24貫)	刻銘	なし
左側・全長	60cm	最大巾	37cm	重量	94kg (25貫)	刻銘	二十五メ

平成二十三年八月吉日

真名板社寺会
真名板薬師堂文化財保存会

参考ホームページ

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2018/08/27/000000>

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/68_gyda/manaita.html

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/15199ef11fc50222bb3e0381f5cf7574>

<http://raumensyunpou.gooside.com/sanpo/sanpo200402153.html>

<https://ameblo.jp/fookky/entry-12338872591.html>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/saitama/gyoda/manataka.htm>

<http://tamtom.blog44.fc2.com/blog-entry-1345.html>

<https://kofun.dosugoi.net/e1028303.html>



